

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

牟礼町

2 地域再生計画の名称

牟礼町まちづくり計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定の日から平成 18 年 3 月 31 日まで

4 地域再生計画の意義及び目標

牟礼町は香川県の中央部、県都高松市の中心部より東に約 10 km の距離に位置し、地理的条件、交通体系の利便性により、高松市のベッドタウンとして急速に発展してきました。町の南北を山並みにはさまれ、東西に平野部が広がっており、その中央を国道 11 号線、鉄道路線が横断することで市街地が形成されています。

北には屋島湾、東には志度湾が広がり、南北の山並みと合わせ、変化に富んだ自然的資源に恵まれた町となっています。

交通アクセスにおいても町中央を横断する国道 11 号線が高松市と徳島県方面を結ぶ広域幹線道路となっており、香川県の道路ネットワーク構成のうえで重要な位置を占め、香川県内を横断する高松自動車道の三木インターチェンジ、高松東インターチェンジからのアクセスの良さも町の道路事情を向上させています。

また国道 11 号線の両側を平行する形で JR 高德線と高松琴平電気鉄道志度線の両線が走っており交通体系の利便性に関しては大変恵まれた環境にあります。

北側の山地には瀬戸内海国立公園の指定がなされ、その麓には、日本の歴史上に有名な源平屋島合戦の史跡等の歴史的遺産、また特産の庵治石（あじいし）に係る石の文化、20 世紀を代表する石の彫刻家イサム・ノグチの庭園美術館が町の中に存在し、アメニティの高い生活環境に資する要素を多く保持しています。

牟礼町には、こうした環境的・歴史的・文化的な観光資源（資産）が豊富に存在するものの、所在地が点在するため、案内看板等の統一化・ウォーキングコース等の動線による連結の体系化が未完成で、未だ観光拠点としての位置づけに達していないのが現状です。

このような状況の中で牟礼町は「牟礼町まちづくり計画」を策定し地域再生に取り組んできました。平成 15 年 9 月より、町内のボランティア有志約 10 名を中心に平成 16 年 4 月までに 12 回の会合を開き、今後数年にわたる活動内容の確認と受け皿となる組織づくり（居住の町内外を問わず会員参画の呼び掛け）を行いました。

そして、平成 16 年 4 月 17 日には、「むれ源平まちづくり協議会設立総会」を開催すると同時に地域再生計画に必要な分野別の実践活動を展開する 6 つの専門委員会（参考

資料参照)を立上げました。

このむれ源平まちづくり協議会(以下「協議会」という。)と傘下の専門委員会(町内外合わせて120名のボランティア)は、地元石材業者等をはじめ、有識者・県内情報関係企業・鉄道各社・高松大学(観光政策研究室)や町外の趣旨賛同者等で構成しています。行政と協議会・専門委員会とが一体となって、地域の産業や現存する『源平屋島合戦史跡』や『イサム・ノグチ庭園美術館』を含む文化財産としての景観・風景・たたずまい等をしつらえてPRすることにより、地域活性化を図り、もって潜在する観光資源のネットワーク化により観光開発を含めた、元気のある「快適生活都市づくり」の実現を地域再生の目標としております。

加えて平成16年4月1日より、アレックス・カー氏(東洋文化研究者・米国人作家)が代表するまちづくりコンサルタント会社、(株)「庵(いおり)」(京都市で活動中)を、協議会及び6つの専門委員会の総合プロデューサーとして、招へいして本事業に取り組んでおります。

地域活性化に成功した事例のほとんどは、行政だけが考えたものではなく、住民自らが知恵を出し、実現のために汗をかいた成果であると報告されているように、「地域再生」も住民参加型まちづくりによってのみ達成されると考えられることから、「一地域一観光」推進を地域再生の重要な柱として取り入れることにより地方自治の主役である住民の住民による住民のためのまちづくりをめざすものです。

住民と行政が共に自分たちの住む地域の良さを再発見し、地域が有する資源を活用して、国内外に広く「牟礼の魅力を発信」していくことで牟礼のアイデンティティー<牟礼らしさ>を確立することができれば、そこに至るプロセス(知恵と汗)こそが地域再生と言えます。

その為にも地域再生に係る支援措置を活用することにより「牟礼町まちづくり計画」を更に促進するとともに、まちづくりに対する本町の積極姿勢を町内外にPRすることができ、住民の意識高揚にもつながります。

「一地域一観光」の推進は、地域づくりに豊富なノウハウを持つ人材、地域づくりの先進事例、各種支援措置等の情報提供をネットワーク化することで、観光地づくりの核となる人材の育成を図り、受入態勢を充実させるものであり、観光客などの交流人口の増加は、地場産業の復活や新たな産業振興のチャンスとなり、あわせて雇用創出のきっかけとなることが期待されるなど地域経済の活性化には不可欠なものです。

すなわち「ひと(人材)の育成」と「情報の発信」の充実を図っていくことで、埋もれている地域資源の歴史的・文化的な価値を高め、観光地としての質や魅力づくりに、より良い循環(相乗効果・波及効果)と付加価値を生み出すことにつながっていきます。

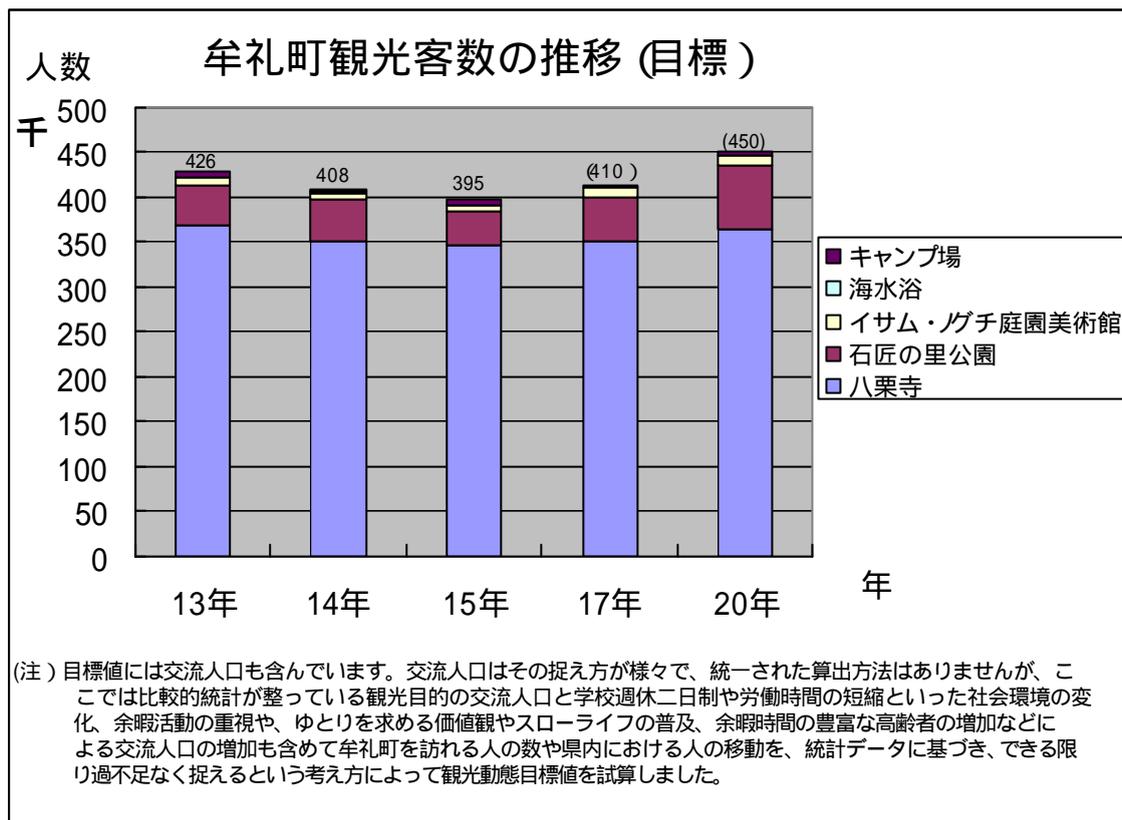
更に、町民自身が主体となる機会が増えることから、町民の行政への参加や創意工夫が図られ、行政運営に係るコストダウンなど効率化が促進されることも期待されます。

歴史や文化、まち並みや景観といった牟礼町が有する資源や強みを牟礼町という地域独自のコンセプトによる知恵と工夫で有効活用し、牟礼町が持つ可能性や潜在力をさらに再発見することで、新たな地域の活性化と地域雇用の創造を図り、牟礼町という地域の真の自立と再生のための環境づくりを整えたいとするものです。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

平成 15 年香川県観光客動態調査（回答分）によると、牟礼町の動員数は、約 39 万 5 千人（八栗寺 346,628 人、イサム・ノグチ庭園美術館 8,923 人、石匠の里公園（石の民俗資料館）35,680 人、キャンプ場 4,210 人、海水浴客 250 人 計 395,691 人）となっています。前年との比較においても 96.7%と減少傾向にあり地域再生計画「牟礼町まちづくり計画」による新たなにぎわいを創出することが必要となっています。

地域再生の取り組みを進めていくことにより、平成 17 年には 41 万人（対 15 年プラス 1.5 万人）、平成 20 年には 45 万人（対 15 年プラス 5.5 万人）の観光客数を目標としています。



6 講じようとする支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

【まち並み・道並み景観保存】

源平屋島合戦史跡密集地に一番近い高松琴平電気鉄道（通称：ことでん）志度線八栗駅駅前広場を整備（休憩所・観光案内所等設置）し、同駅から北方位置する「源平屋島合戦」の史跡である駒立岩（こまだていわ）注まで（約1 km）の旧街道に点在する「源平屋島合戦」の史跡をウォーキングコースとして整備する。

新しく観光拠点を作るのではなく今ある牟礼町に残る風景や地域の歴史・生活文化を見つめなおすことで牟礼町の“残すことに価値があるもの”“残すことで価値があるもの”を再発見し、牟礼町の住民と牟礼町に来た人たちが「自然」や「歴史」を介してふれあう交流の場として、また「自然」や「環境」、「歴史」の野外教育の場として、住民がスローライフできるまち並み（たたずまい）の保存、子ども達が集まり、外で安全に遊べる道並みの再生をめざす。

源平合戦の“象徴”である紅白旗を設置して史跡を明示するとともに、周辺石材店の協力を仰ぎ、石の案内塔の作製も視野に入れ、ムードづくりも同時に行う。

注 駒立岩...那須与一が扇的を射たというエピソードがあった場所

【観光案内媒体の充実】

県内外からの訪問客にわかり易く牟礼町の情報提供を施すため、既存のパンフレットを見直し、“簡単・明瞭・印象的”な『観光パンフレット』を作成する。

デザインのレイアウト的に時代遅れとなった観光案内掲示板等を設置場所・掲示内容を総合的に再検討し設置する。

ボランティアガイドサービスを設置し、訪問者が、牟礼町の住民との「人と人のつながり」を密にとれるような工夫、昔から四国にのこる“お接待”（四国八十八ヶ所参りの遍路に対して住民が無償でおもてなしすること）の心を持った観光案内を展開する。

IT化する時代のニーズに対応するため、町ホームページへの掲載内容や携帯電話等のモバイルに提供するコンテンツ内容を検討する。

公共交通機関利用者をはじめ自家用車利用訪問者に、町内観光の「足」としてレンタサイクルを提供する。

【源平史跡保存会（NPOなど）の設立】

町内のあらゆる史跡・文化財保存、管理、整備または利用をとおして一般住民の教育の推進、まちづくりの推進、文化・芸術の振興、及び環境の保全を図ることを目的とするNPO法人『源平史跡保存会』の設立を検討する。

史跡・文化財の清掃奉仕・整備・勉強会の開催。

【駐車場等の整備】

駒立岩南側町有地（1,400㎡）を駐車場兼多目的広場として整備するとともに、地元の協力（管理面）を得ながら公園機能も追加することによって、利用客のない夜間は、地元のコミュニティ広場として使用する等、多角的な有効活用法を検討する。

【イサムノグチ庭園美術館に関する啓発及び顕彰】

牟礼地区には世界的彫刻家『イサム・ノグチ』が人生最後に選んだアトリエが「イサム・ノグチ庭園美術館」として整備されていることから、これを内外に啓発するとともに、本年が生誕100周年にあたることを記念して、氏の偉業を顕彰する。又、本年夏、NPO法人でイサムノグチ研究団体「サロンINかがわ」と共同で北海道に現存するイサムノグチの作品見学ツアー等を実施する。牟礼町の小中学生を対象に香川県文化会館学芸員（むれ源平まちづくり協議会会員）と共同で「出前講座」を開催する。

【石の民俗資料館（町有施設）の活性化】

牟礼町に平成7年3月開館した人と石の文化史をテーマにした「石の民俗資料館」の有効活用（重要文化財保存・石材工業の伝承・文化的イベント開催）を検討する。町の基幹産業である石材産業の振興に関しても居住の町内外・職業を問わず広い範囲からの意見を集約・実践する。

8 その他の地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

- ・ NHK大河ドラマ「義経」ロケ誘致委員会への協力
- ・ 「牟礼町元気なまちづくり条例」の制定

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212016「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援措置を受けようとする者

牟礼町

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

平成 16～17 年度にかけて、牟礼町と「むれ源平まちづくり協議会」を中心として協働で町内の源平屋島合戦史跡や文化財産を有効に活用し、歴史・文化創造のまちとしての付加価値を向上させるものです。

全国の成功事例から学ぶことや情報収集・発信は、この事業に不可欠なものであり、十分に活かしていくと共に、「牟礼町まちづくり計画」を更に促進するため、平成 16 年度において、本支援措置による情報等を活用することにより、まちづくりの質の向上、住民意識の高揚、町内外への情報発信を図るものです。